

奥尻島の津波被害と復興の姿

《民主・みんな・維新会派の視察報告》 2014年7月8日～11日
(中里省三・江副亮一・金井茂・深江一之・中津川将照)



函館からプロペラ機で奥尻島へ

北海道南西沖地震

平成5年7月12日午後10時17分、奥尻島の北方沖の深さ34kmを震源地とするマグニチュード7.8の地震は奥尻町で震度6の烈震、江差町、寿都町、小樽市で震度5の強震。倶知安町、函館市、苫小牧市で震度4の中震を記録した。

この地震で北海道では、檜山、後志支庁

管内を中心に、津波や土砂崩れによる大規模な災害が発生し、死者201名、行方不明28名、負傷者323名、被害総額は1,323億円にも達した。

中でも最大の被災地となった奥尻町では、青苗地区が津波と火災で壊滅状態となり、奥尻地区もホテル「洋々荘」等が土砂崩れで倒壊埋没して一度に20数名の死者を出すなど、町全体で死者172名、行方不明26名の大惨事となった。

漁業で働く人たちへ緊急の避難場所として

下の場所が3箇所作られた。



地震で津波などに襲われたとき、高台へ避難しなければいけないなど、漁業に従事する人々の安全を考え、一時避難的役目を果たす施設として作られたものです。このような施設が3箇所作られています。

現在の奥尻島は、漁業と農業で生計を立てている人がほとんどです。町は、津波の傷跡もなく、新しい家々が並び、区画整理後の街のようです。災害を意識し、防災のための避難路や避難所が設置され、二度と大災害から町民一人ひとりを守ろうという気概が感じられました。江戸川区においても、災害に強い街づくりを区民とともに考え、作っていかうではありませんか。

還らぬ友よ

今は亡き肉親よ(文集より抜粋)

いないんだ 6年 飯田 桂

聞いたときには

泣けなかった

またにっこり笑って

名前を呼んでくれるような気がして

泣けなかった

また元気に

「おはよう」って

言ってくれるような気がして

泣けなかった

この頃よく思う

「いないんだ」って

「もういないんだ」って



ぼくは 6年 大須田 洋介

ぼくは 二人の好きな人がいる

いつも やさしい笑顔の母

ときどき こわかった父

でも あの日から父は

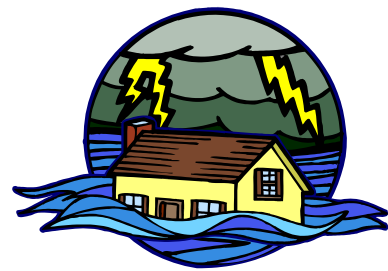
いなくなった

地震と津波のために・・・

海で仕事をしていた父

ぼくを はげましてくれた父

おこるとこわかった父



父が いなくなって

かなしい日やさびしい日もある

ぼくは 中学生になる

どんなことがあっても

父にまけず

母にやさしく

ぼくはがんばる